

令和6年度

高田中学校

入学試験問題

国語

《注意事項》

- 1 問題用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙は、問題用紙にはさんであります。
- 3 試験開始の合図で、解答用紙に受験番号と名前を書いてください。
- 4 答えは解答用紙の解答らんにはっきりと書いてください。
- 5 問題用紙にメモなどの書きこみをしてはかまいません。
- 6 試験終了後、この問題用紙は持ち帰ってください。

【一】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(出題にあたり、一部表記を改めました。)

失敗は、怖がり過ぎてもダメ、怖がらなさ過ぎてもダメ。

大切なのは、失敗と上手に付き合う方法を見つけることです。

人は、生きているかぎり、必ずいくつかは失敗しますし、事故を起こすこともあるでしょう。

あり得ることは起こります。どうしても起きてしまう「失敗」との付き合い方が上手なひとは、新しいことに*果敢にチャレンジして、大きく飛躍するチャンスをつかむことができます。たとえそのチャレンジで失敗したとしても、数々の失敗と上手に付き合いながら積み重ねてきた体験的知識を生かして、どんな挫折も乗り越え、さらに成長して、次のチャンスに②ソナエルことができます。

逆に①失敗との付き合い方が下手なひとは、失敗するかもしれない*リスクをひたすら避けるので、同時に成功するチャンスも逃してしまいます。また、失敗した経験からしか学べない体験的知識も身につけられないため、取り返しのつかない失敗が起こる可能性を低くもできず、実際に大きな失敗が起きてしまったときには、*リカバーして回復する方法もわからず、大きなダメージを受けることとなります。

では、失敗と上手に付き合うためには、どうすればいいのでしょうか。

予想できる失敗についての知識を蓄えて、常にその知識を念頭に置いて行動すれば、不必要な失敗を回避できる可能性は高まります。失敗が致命的なものになる前の段階で、その失敗の原因や特性を知れば、有効な対応策を考えて、的確な対応が取れるので、失敗が大きくなることを未然に防げます。

ですから、失敗と上手に付き合う上で大切なのは、失敗のⅠや特徴を整理し、失敗が起こるⅡを分析し、失敗が持つⅢを理解することです。

それらを誰もが理解できるように、論理的(科学的)な*視座からの*アプローチによって実行するのが「失敗学」です。まずは「失敗の種類」についての解説から始めましょう。

世の中の失敗は二つのタイプに分かれると私は考えます。

「許される失敗」と「許されない失敗」です。

もっと簡単に言うなら「よい失敗」と「②悪い失敗」です。

まずは「よい失敗」について説明します。

「よい失敗」とは「個人が未知なるものに遭遇^{そうつくう}して起きた失敗」です。個人が無知であったり、あるいは、何かミスして起きるタイプの失敗です。この手の失敗をしたひとは、なんらかの批判や*ペナルティを受けることになります。その失敗で、ある程度、まわりのひとに迷惑^{めいわく}をかけてしまったのであれば、叱^{しか}られるくらいは仕方ないかもしれません。しかし、あまり責め立てたりするのは避けるべきです。

なぜなら、その「未知なるものとの遭遇による失敗」は、そのひとが成長する過程において、必ず遭遇しなければならぬものだからです。

失敗なしに人間は成長しません。ひとは失敗して成長し、また小さな失敗を体験して、その分、成長していくというくり返しのなかで、一つひとつの失敗経験から **X** を得ることで、次の大きな失敗を起こさないために、徐々に軌道修正^{きどうしゆ}していくからです。さらには、その失敗経験を将来の成功へと転化することもあるからです。

失敗と成長・発展の関係は、生物学の「系統発生と個体発生の仕組み」の原理に似ています。

私たちはどのような③プロセスを経て「人類」へと進化したのか、みなさんも学校の理科の時間に習ったと思います。系統発生で考えると、およそ一〇億年前、地球に初めて動物や植物の祖先となる多細胞生物^{さいぼうぶつ}が登場し、約四億六〇〇〇万年前に魚類が登場、その一部が両生類となり、そこから哺乳類^{ほにゅう}が進化して、人類が⑥タンジヨウしました。

一方、私たちは母親の体内で⑤ジュセイランから赤ちゃんにまで成長しますが、この個体発生においても、やはり系統発生と同様に、ジュセイランは細胞分裂^{さいぶんれつ}をくり返して、最初は魚類、次は両生類というプロセスを経て、最後に「人間」の姿となります。

つまり、人類がタンジヨウするまでの系統発生の一〇億年のプロセスが、赤ちゃんがタンジヨウするまでの個体発生の一年足らずのプロセスとして、母親の体内で、再びくり返されているのです。

私は、人類が母親の体内で「魚類→両生類→哺乳類」という進化のプロセスをたどって生まれてくることと、人間が失敗から知識を得ながら成長していくプロセスに共通するものを感じます。

人類はこれまで、その長い歴史のなかで、さまざまな失敗を経験してきました。その失敗の数々が人類を進化させ、文明を発展させて、現在の私たちの世界につながっています。それは、一人の人間が成長するときも例外ではなく、人類がたどった歴史と同じく、数々の失敗を体験してこそ、初めて成長できるのではないかと思うのです。

この「ひとが成長するうえで、必ず必要となる失敗」が「よい失敗」なのです。ですから、成長したいと望むひとは、積極的に「よい失敗」を経験するべきです。

では、「悪い失敗」とはどのようなものでしょうか。

極端に言えば「よい失敗」に含まれないすべての失敗が「悪い失敗」と言えます。具体的には「単なる不注意や判断ミスで起こり、そこからは何も学ぶことができず、何度もうり返されてしまうような失敗」です。たとえ他人には迷惑をかけないものであったとしても「悪い失敗」です。失敗したひとにとって意味がなく、反省もされないもので、習慣的にくり返され、やがて大きな失敗につながるリスクがあるからです。「A」

逆に、失敗したひとにとって意味があり、成長を促すきっかけになったとしても、周囲の人間に悪影響を及ぼすような失敗は「悪い失敗」です。「B」

一人の人間が成長するために他人が甚大なダメージを受けてもいいはずがありません。その失敗によって得られる*メリットと*デメリットを比べたとき、圧倒的にデメリットの方が多ければ「悪い失敗」なのです。「C」

失敗から体験知識を得ようとすれば、一つひとつの失敗が取り返しのできないほど大きな失敗につながるような気がつけながら、ダメージをリカバーできる程度の「よい失敗」の経験を積み重ねていく必要があります。「D」

ただし、そこには一つ、課題があります。仕事や日常生活で起きている大小さまざまな失敗のなかでも、経験したときにそこから体験的知識を得られるような「よい失敗」は、決して多くないということです。「E」

ただ、この課題を解決する方法はあります。自分自身の「よい失敗」だけでなく、他人の「よい失敗」からも体験的知識を得られるようになればいいのです。

そのためには、「自分自身が「よい失敗」をした」という数少ないチャンスが到来したとき、その貴重な経験から体験的知識を得るために有効な取り組みを実践することで、失敗の本質を理解して、より確実に「よい失敗」から体験的知識を身につけていく経験の積み重ねが必要になります。

そのような経験を積み重ねていけば、自分が起こした「よい失敗」だけでなく、他人の「よい失敗」からも効率的に体験的知識を学べられるようになります。

結果、たとえ自分自身で「よい失敗」を経験する機会が少なくても、資料として記録されている他人の典型的な「よい失敗」の原因を分析することで、そこから体験的知識を学び、自身の成長につなげられるようになるのです。

(畑村洋太郎『やらかした時にどうするか』より)

(注) *果敢に：思い切りがよいこと。

*視座：物事を見る姿勢や立場。

*メリット：利点。

*リスク：おそれ。

*アプローチ：対象にせまる方法。

*デメリット：欠点。

*リカバー：取りもどすこと。

*ペナルティ：罰則。ばっく

問1 部②～④のカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。ただし、②には適当な送り仮名をひらがなでつけなさい。

問2 部①「失敗との付き合い方が下手なひとは、失敗するかもしれないリスクをひたすら避けるので、同時に成功するチャン

スも逃してしまいます」とありますが、失敗するかもしれないリスクをひたすら避けることが、成功するチャンスも逃してしまうことになるのはなぜですか。理由を六十字以内で書きなさい。(句読点を含みます。)

問3 空らんⅠ・Ⅱ・Ⅲに入る語句の組み合わせとして、最も適当なものを次のア～カから選び、記号で答えなさい。

ア.	Ⅰ—原因	Ⅱ—種類	Ⅲ—法則性
イ.	Ⅰ—原因	Ⅱ—法則性	Ⅲ—種類
ウ.	Ⅰ—種類	Ⅱ—原因	Ⅲ—法則性
エ.	Ⅰ—種類	Ⅱ—法則性	Ⅲ—原因
オ.	Ⅰ—法則性	Ⅱ—原因	Ⅲ—種類
カ.	Ⅰ—法則性	Ⅱ—種類	Ⅲ—原因

問4 ———部②「悪い失敗」の説明として、最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア. 仕事中や日常生活で起きる失敗であり、自分では気をつけていても、他人に必ず迷惑をかけてしまうこと。
- イ. 個人が未知なるものに遭遇して起きる失敗であり、何度もくり返されてしまうため、軌道修正できないこと。
- ウ. 何かミスをしたときに、社会全体から批判やペナルティを受けるため、心が傷つき、リカバーできないこと。
- エ. 失敗から何も学ぶことができず、何度もくり返されてしまい、周囲の人々にも悪影響を及ぼしてしまうこと。
- オ. 成功した人の体験談を聞いて自分でもできると思い込み、周囲の忠告を無視して突き進んで、失敗すること。

問5 空らんXに当てはまる言葉を、本文中からぬき出して書きなさい。

問6 ———部③「プロセス」と同じ意味で用いられている言葉を、本文中から漢字二字でぬき出して書きなさい。

問7 次の文はもともと本文にあったものです。もとの位置にもどした場合、空らんA～Eのうちどの部分に入りますか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

もし、それが「悪い失敗」であれば、いくら経験しても、個人として成長することはできません。

問8 筆者は、ひとが成長するときには何が必要だと考えていますか。七十字以内で書きなさい。なお、解答する際には「自分」「他人」「失敗」という言葉を用いること。(句読点を含みます。)

国語の試験問題は次に続きます。

(下書き用紙)

しい舞台には二度と立ちたくないと思ったほどだ。

拍手はまばらで、もちろん賞には入らず、舞台を降りて体育館の客席に戻った私たちは満足感のかけらもなかった。クラスの一体感など生まれようもない。それでも、ともかく終わった。これで、あの歌とはお別れだ。受験と合唱コンクール、ふたつも^{あや}綾のついたあの歌を、もう歌うこともないだろう。体育館に並べられた椅子にすわり、私は今日のこともぼんやりの膜にくるんで忘れてしまおうと思った。それであとはまた^③ぼんやりとした日々に戻れるだろう。

私の望みどおり、ぼんやりはすぐにこの手に戻ってきた。合唱コンクールとその前後の、苛立ちも恥もいざこざも、すべてなかったことのように穏やかな日々。そのうちにまた次の行事がやってくるのだ。——マラソン大会だ。次は、初冬のマラソン大会だった。

合唱コンクールに負けず劣らずマラソン大会も人気がない。あたりまえだと思う。ただ走るだけで苦しいばかり、しかもまったくの個人競技だ。どうしてこんなものが学校行事として存在しているのか理解ができない。そんなふうを感じるのは私の運動神経が並外れて悪いからで、もしかしたらマラソン大会を楽しみにしている人も中にはいるのだろうか。

その日が近づくにつれ憂鬱になる。正門を出発して住宅地を抜け、大きな橋のもとに出たら川べりの道に戻ってくる。七キロ弱のコースになる。運動部でよほど鍛えてでもない限り、走り通せるわけがない。しかも、やっと学校に戻ってきててもそこが終点ではない。ゴールを盛り上げるためか、グラウンドをさらに一周することになっている。あの一週が特につらい。ほとんどの生徒がゴールしてしまい、あちこちにすわって^④ダンシヨウしている前を、ひとりで最後まで走る。体力的にも精神的にもきつい一周だ。

^④サボろうか、どうしようか、迷いながらも結局は登校した。たしか去年もこうだった。休もうと思っていたのに、朝、母の顔を見て気が変わった。家にて母と一日じゅう顔をつきあわせているよりは、マラソン大会のほうがむしろ思ったのだ。いつもの行事と同じようにぼんやりとやり過ごせばいいだけだ。——とはいえ、走るのはいっぱりつらかった。今年もサボらなかつたことを後悔するだろう。空を見上げ、ため息をつくとき、思いがけず息が白い。寒い朝だった。

スタートした時点ですでに足が重かった。ガンバロウ、と肩を叩いてくれた佐々木さんがはるか前方へ飛び出していく。ジャージ姿の生徒たちに混じって短パンの元気な子がいると思えば意外にも原さんだ。校門を出たあたりで私はもう最後尾のグループにいた。早くも息が上がっている。脇腹が^⑤イタい。どう足掻いてもこのままビリを走ることになるだろう。すぐに私は走るのをあきらめて、脇腹をさすりながら早足で歩く。あつというまに周りに誰もいなくなつた。ときどき前方にジャージを見たけれど、すぐにまた見えなくなつてしまう。住宅地を抜け、橋の傍らで折れて川沿いを走る。歩く。走る。歩くほうが多い。息が苦しい。

何をやっているんだろうと思う。今ごろは歌を歌っているはずじゃなかったか。こんなところを息を切らして歩いたり走ったりする代わりに、^A音楽と取っ組みあつていたかつた。肩で息をして歩く。もはや早足ときえいえない。

I と足を進めながら、見上げた

土手にススキが風に吹かれていた。ススキに呼ばれるように、**II**と川のほうへ道を外れる。荒い息を整えながら、低い土手を上る。向こうは灰色の大きな川だ。その流れを眺めるうちに、不意に自分がどこに居るのかわからなくなってしまう。今の私は**B**音楽からずいぶん遠い場所に立っている。そのことだけは、手で触れることができるくらいはつきりとわかった。

土手の上に佇んでいると、遠くから威勢のいい自転車が来るのが見えた。見えたと思うまに**III**こちらへ近づいてくる。乗っているのは小ぶりの*入道のような男だ。©キケンを感じて土手の端に寄ったのに、私をめぐって突き進んでくる。立ちすくむ私の真ん前で、自転車は急ブレーキをかけた。驚いていると、走れえ、と自転車の入道が怒鳴った。どこかで見たような顔だと思ったら、明泉の先生だったらしい。慌てて走り出す私のすぐ後ろを、走れ、走れ、と自転車で追いかけてくる。もう走れないんだよう、と口の中だけでいって、半分泣きそうになりながら土手から歩道へ下りて走る。足がイタい。脇腹もイタい。学校まではまだ遠い。息が上がり、心臓が飛び出しそう。先生はどこまでもついてくる。どうやらほんとうに私が最後の生徒だったらしい。

校門をくぐると、すでに備品の後片づけをしている生徒や先生が目に入る。私のすぐ横を*伴走していた自転車がそこでようやく止まる。

「フアイトフアイト！ もう一息だ！」

かろうじてうなずいてみせる。足がもう前に出ない。まだこれからグラウンドを一周しなければならんなんてつらすぎる。自転車置き場の横を過ぎ、体育館の裏手を通り、やっとグラウンドが見えてくる。ジャージの生徒たちが散らばっている。その明るい場所へ、私是一向に近づいていかないうような気がする。走っているのか歩いているのか自分でもわからない。足は上がっているのか、地を這っているだけなのか。それより、この心臓はだいたいどうぶなのか。耳か、頭か、もしかすると目の奥が、ガン、ガン、ガン、と規則正しく鳴っている。このガンはラ。ドレミファソラ、の、ラだ。そんなことがわかったってなんにもならない。*絶対音感なんてどこかへ行ってしまえ。

汗だくになって走りながら、私の目はトラックの茶色しか見ていない。私の耳は、ガン、ガン、ガン、——と、それからかすかな旋律をとらえる。どこからか、歌が聞こえる、ような気がする。最初はひとつの声。か細い、頼りない旋律だったのが、次第に声が集まって大きく力強くなっていく。幻聴？ ではない。荒い息と心臓の鼓動と耳鳴りと、それらを超えて歌が聞こえる。何の歌だかわからなかった。ただ、どこかで聞いたことのある歌だと思った。顔を上げて、あたりを見る。足がふらつき、視界が揺れる。その隅に、ジャージの一団がかたまっているのが見える。ふたり、三人、と集まってくる。まんなかには短パンの小柄な生徒だ。

はっとした。まさか、と思う。これはもしかして、あの歌だろうか。あの、私たちが合唱コンクールで歌った歌。最後までうまく歌えなくて、それどころかクラスが全然まとまらず、わずかな自信までなくしていた。あのときの歌とは、**⑤**まるで別の歌に聞こえる。

でも、たしかにあの歌だ。こんな歌だったのか。こんなに素朴で、いきいきと生きるよろこびを歌った歌だったとは。若草が薫り、雲雀が舞う空の下で、若い田舎娘たちが裸足で戯れながら歌を歌っている。トラックを走りながら、目の前にその光景が浮かぶようだ。私はまったく考え違いをしていた。歌わせよう、歌わせようとした。*技巧を重視して、歌う動機も気持ちも置き去りにした。薄暗い教室で*譜面から目を離さず、注意ばかり飛ばして歌わせる歌では決してなかった。聴かせよう、感動させよう、歌う歌でもない。これは、まぎれもなく彼女たちの歌、そして私たちの歌だ。

足が震えそう。胸が高鳴っている。マラソンのせいばかりではない。目に原さんが映っている。牧野さんも柴崎さんも、中溝さんもいる。⑥歌のはじまりに私たちは立ち会っている。ここにいるみんなが、何もなかったこの場所に歌のはじまるところを確かに見た。もともと、歌のはじまりはこういうものだったのかもしれない。よろこびや、祈りや、誰かに届けたい思いを調べに乗せる。同級生たちが私に向かって——おそらくは学校一、足の遅い私を励ますために——いつのまにか声を合わせたように。その自然な感情の高まりこそが歌だったんじゃないか。足を引きずり涙を拭いながら私は走っている。歌声が大きくなる。あと少しで、ゴールだ。

(宮下奈都『よろこびの歌』より)

(注) *執着：一つのことにと心をとらわれて、そこからはなれないこと。

*入道：ぼうず頭のばけもの。

*絶対音感：ある音の高さを他の音と比較せずに識別する能力。

*技巧：テクニク。

*譜面：楽譜。

*綾のついた：けちがついた。

*伴走：競技者のそばについて走ること。

*旋律：メロディー。

*雲雀：鳥の名前。春の鳥。

問1 ——— 部㉔㉕㉖のカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。

問2 ——— 部①「やめようか、と思った」、——— 部②「やめてもよかった」とありますが、合唱コンクールの指揮者を、結局やめなかつたのはなぜですか。理由を四十字以内で書きなさい。(句読点を含みます。)

問3 ——— 部③「ぼんやりとした日々」とはどのような日々のことですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア. 学校の行事があるたびに疲れてしまうが、親しい友人たちが肩をたたき励ましてくれるおかげで、心が落ち着いていること。
- イ. 好きな合唱から遠ざかっていることは残念だが、またいつか積極的に合唱に取り組めると信じて、静かに暮らしていること。
- ウ. 毎日が平凡で、特別にすることがなくのんびりと暮らしているが、母親や先生の言うことだけは逆らわず従っていること。
- エ. 音大の附属高校に合格できなかった日から、何をするにも無気力だったが、学校の行事だけは嫌がらずに参加していること。
- オ. 何かに真剣に取り組んだり心から喜んだりすることはないが、毎日が安らかで、わずらわしさのない生活を送っていること。

問4 ——— 部④「サボろうか、どうしようか、迷いながらも結局は登校した」とありますが、「私」はなぜ「結局は登校した」のですか。次の空らんには当てはまるように、本文中から四十字以上四十五字以内でぬき出し、最初と最後の四字を書きなさい。(句読点を含みます。)

から。

問5 ——部A「音楽と取っ組みあつていたかった」、B「音楽からずいぶん遠い場所に立っている」についての説明として、最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア・ Aは音楽を徹底的に追究したかったという気持ちを表現しており、Bは音楽から目をそらし関わりのない生活を送っていることを表現している。
- イ・ Aは音楽を徹底的に否定したかったという気持ちを表現しており、Bは音楽から目をそらし関わりのない生活を送っていることを表現している。
- ウ・ Aは音楽をもっと好きになりたかったという気持ちを表現しており、Bは音楽から別の分野に興味があつていいることを表現している。
- エ・ Aは音楽を心の底から嫌いになりたかったという気持ちを表現しており、Bは音楽から離れて音楽を客観的に見ていることを表現している。
- オ・ Aは音楽をもっと身近に感じていたかったという気持ちを表現しており、Bは音楽から離れて音楽を客観的に見ていることを表現している。

問6 空らんⅠ・Ⅱ・Ⅲに入る語句の組み合わせとして、最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|----|--------|--------|--------|
| ア・ | Ⅰ—のろのろ | Ⅱ—ぐんぐん | Ⅲ—ふらふら |
| イ・ | Ⅰ—ぐんぐん | Ⅱ—ふらふら | Ⅲ—のろのろ |
| ウ・ | Ⅰ—ふらふら | Ⅱ—のろのろ | Ⅲ—ぐんぐん |
| エ・ | Ⅰ—のろのろ | Ⅱ—ふらふら | Ⅲ—ぐんぐん |
| オ・ | Ⅰ—ふらふら | Ⅱ—ぐんぐん | Ⅲ—のろのろ |

問7 ——部⑤「まるで別の歌に聞こえる」とありますが、「別の歌に聞こえる」とはどういうことですか。解答らんにかうように、八十字以内で書きなさい。(句読点を含みます。)

問8 ———部⑥「歌のはじまり」とありますが、私の「歌」に対する考え方は、どのように変化しましたか。次の空らん1・2に適當な文を入れて、説明を完成させなさい。

はじめは、歌は

1

ものと思っていたが、マラソン大会での合唱を聞

いて、歌は本当は

2

ものなのだと考え方が変わった。

【三】次の文章は三宅香帆『推しの素晴らしさを語りたのに「やばい！」しかでてこない—自分の言葉でつくるオタク文章術』の「推しの素晴らしさを語るためのQ&A」での質問と筆者の回答です。以下を読んで、あとの問いに答えなさい。

(出題にあたり、一部表記を改めました。)

Q. 「とにかく好き」しかでてきませんか！

どこが好きか聞かれても「好きに理由とかある？ ないよね」と思ってしまいます。とにかくいい、とにかく好き、それしか言葉がでてきません。

A. 好きなどころじやなくて、好きな*エピソードについて語るのはどうですか？

好きに理由はない……って世間ではよく聞く言葉ですが、はたして、本当にそうなのかな？ と私は割と*懐疑的かいぎです。だって推しができるには、なにかしら「好きになったきっかけ」があって、「あー好きだなーと思う瞬間しゅんかん」の積み重ねがあって、さらに「好きじゃないかも？」と思ったけど、やっぱり好き!! と感じる出来事できごとがあって……、というような好きの積み重ねがあるはずなんです。あなたと推している人の間に、いろんな瞬間が訪れているからこそ、あなたはその人を好きになっているんです。

というわけで、必ずしも「どこが好き」と理由を語るのではなく、好きだと思った具体的なエピソードやきっかけについて語ってみるのはどうでしょうか。

(注) *エピソード……ある事柄ことばについて、そのことを具体的に示す、ちよつとした出来事。また、それを伝える話。

*懐疑的……疑いを持っているさま。

問 あなたの「推し」(好きな人、または好きなもの)の素晴らしさについて、筆者の回答をふまえて三百字以内で書きなさい。

(国語の試験問題は以上です。)